

名古屋市プラスチック削減指針

～そのプラスチックは必要ですか？～

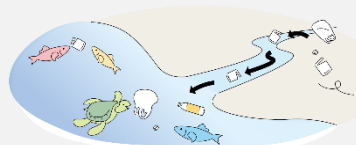
【市民向け概要版】

プラスチック問題とは

「プラスチック問題」と一言と言っても、プラスチックが関係する問題は様々です。

プラスチックが関係する問題は海洋汚染・資源枯渇・地球温暖化といった分野に波及し、その根底にはプラスチックの大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会構造があります。

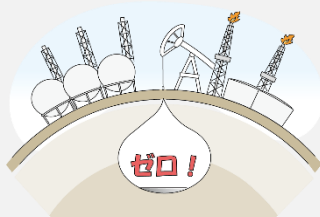
大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会が引き起こすプラスチックによる問題



海洋汚染の問題

プラスチックは分解されにくい性質を持ち、ポイ捨てや風で飛ばされるなどにより海へ流出して海洋汚染を引き起こしています。

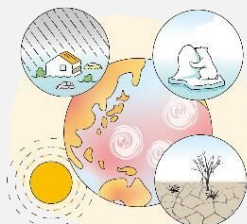
海へ流出したプラスチックは絡まったり、誤って食べられたりすることで海洋生物を傷つけるほか、劣化して小さく砕けたマイクロプラスチックは有害な化学物質を吸着し、これを生きものが取り込むことによる影響が懸念されています。



資源枯渇の問題

プラスチックは主に石油を原料として製造されており、プラスチックを大量に使い捨てることは天然資源の無駄遣いとなります。

天然資源の消費量を抑えるために、リサイクルの取組みは非常に重要ですが、プラスチックの全てを再度原料に戻すことは困難であり、天然資源の投入を完全に無くすことはできません。



地球温暖化の問題

プラスチックは焼却するとCO₂を大気中へ大量に排出することから、地球温暖化への影響も問題視されています。

産業革命前と比較して世界の平均気温は既に1℃上昇しており、今後も見込まれる気温上昇を1.5℃以内に抑えることができれば、私たちの生活に甚大な被害を引き起こすと言われています。

理想の状態「大量生産・大量消費・大量廃棄型社会からの脱却」に向けて

プラスチック問題の解決のためには、まずは使用するプラスチックが本当に必要かを見つめ直し、可能な限りプラスチックの使用を「減らす」ことが重要です。

しかし、プラスチックはその有用性から様々な場面で私たちの生活を支えており、その全てを無くしてしまうことは困難です。どうしても必要なプラスチックについては、「大切に使う」「循環させる」「置き換える」といった行動を実践し、環境に対する負荷を少しでも軽減していくことが大切です。

これらの行動は市民・事業者双方の理解と協力によって成り立つものであり、本市も市民・事業者の皆さまと一体となって取組みを進めていきます。

次ページからの行動メニュー例に取り組んでみましょう！

まずは

Action 1

減らす

どうしても
必要なものは

Action 2

大切に
つかう

Action 3

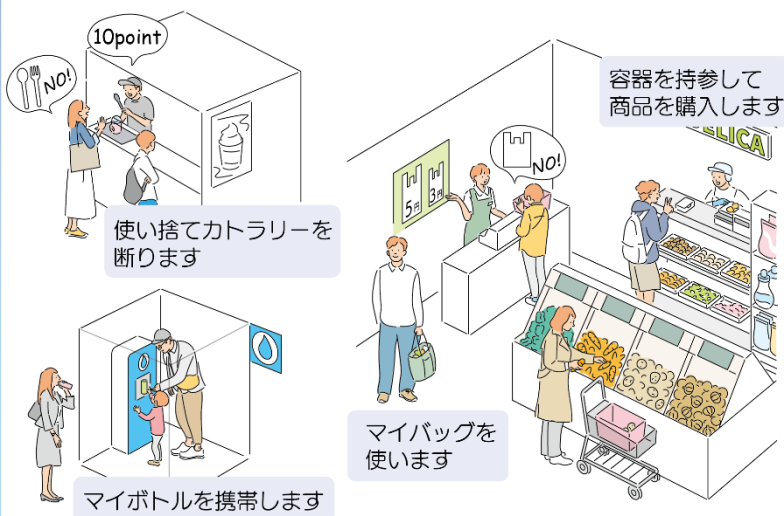
循環させる

Action 4

置き換える

Action 1 減らす

プラスチックの使用を減らします



市民の行動メニュー例

- マイボトルを持っておでかけする
- お買い物にはマイバッグを持参する
- 使い捨てスプーン・フォーク等は受け取らない
- 容器包装の少ない（簡易包装）商品を選ぶ
- 詰め替え式の商品を選ぶ
- 容器を持参して量り売り商品を購入する

市の施策

- ▶ プラスチック問題についての環境教育・情報発信を実施します
- ▶ 使い捨てプラスチック削減に関する広報・啓発を実施します
- ▶ 2R 推進実行委員会と協働した使い捨てプラスチックの削減推進運動を実施します

Action 2 大切に つかう

プラスチック製品を長く大切に使います



市民の行動メニュー例

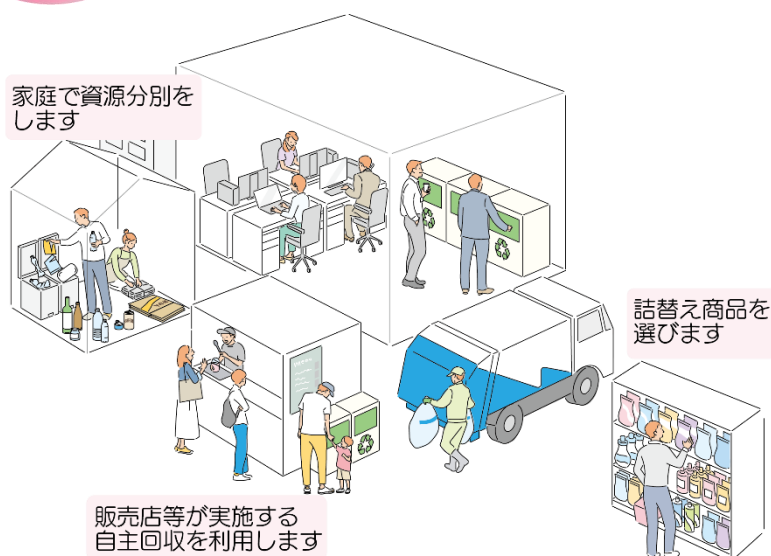
- プラスチック製品を大切に使う
- リユース品や長く繰り返し使える製品を選ぶ
- リユースショップやフリマアプリなどを利用する
- まだ使用できるものは必要としている人に譲る
- 一時的な利用にはレンタル用品やシェアリングサービスを活用する

市の施策

- ▶ リユースの促進に関する広報・啓発を実施します
- ▶ 民間と連携したリユース事業を実施します
- ▶ 地域におけるリユースの取組みを支援します
- ▶ アップサイクルの普及を促進します
- ▶ 新たなシェアリングサービスの利活用を検討します

Action 3 循環させる

プラスチックが循環するよう
分別し、再生商品を選びます



市民の行動メニュー例

- リサイクルしやすい商品を選ぶ
- 再生素材を使用した製品を購入する
- プラスチック類の分別をしっかりと実践する
- 販売店等が実施する自主回収を利用する

市の施策

- ▶ 分別に関する広報・啓発を実施します
- ▶ プラスチックの素材別リサイクルを推進します
- ▶ 事業者による自主回収を推進します
- ▶ グリーン購入による再生品の利用を推進します

Action 4 置き換える

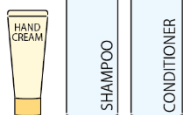
プラスチックを紙などの代替素材や
バイオマスプラスチック等に置き換えます



代替素材や
バイオマスプラスチック等
を使用した製品を購入します



※1



※2



※1 出典：日本バイオプラスチック協会

※2 出典：（一社）日本有機資源協会
バイオマスマークは生物由来の資源を使用した
製品に表示できます

市民の行動メニュー例

- 代替素材やバイオマスマーク等について調べる
- 素材や利用方法の違いによる環境負荷の差を調べる
- 代替素材やバイオマスプラスチック等を使用した製品を購入する
- 代替素材やバイオマスプラスチック等の使用や開発に熱心なメーカーやお店を率先して利用する

市の施策

- ▶ 代替素材等の適切な利用の広報・啓発を実施します
- ▶ 代替素材等を使用した製品の情報発信を実施します
- ▶ グリーン購入による代替素材等の利用を推進します
- ▶ 木曽川上流域と連携した間伐材の利活用を促進します

名古屋市におけるプラスチック問題の現状

■藤前干潟での漂着ごみ及びマイクロプラスチック調査結果

漂着ごみの調査結果

漂着したごみのほとんどはプラスチック類でした。また、プラスチック類のうち多くはペットボトルや商品容器などの容器包装でした。

堤防沿い 50m 区間の調査で
合計 **49.51kg**
3,368個
ものごみを確認！！



＜ごみの大分類別の組成表＞
令和3年10月23日実施

	重量	個数
プラスチック・発泡スチロール	39.00	3,231
ゴム	2.90	21
ガラス、陶器	2.70	24
金属	4.20	76
紙、ダンボール	0.20	8
天然繊維、革	0.01	1
木（木材等）	0.50	7
電化製品、電子機器	0.00	0
合計	49.51kg	3,368個

マイクロプラスチックの調査結果

藤前干潟の堤防では、多くのマイクロプラスチックの漂着が確認されています。確認されたマイクロプラスチックは、農業で使われる徐放性肥料の殻のほか、プラスチック片や発泡スチロール片が多く確認されました。

わずか15cm×15cm
深さ1cmの中で
合計 **1,622個**
ものマイクロプラスチックを確認！！



＜マイクロプラスチックの細分類別の組成表＞
令和3年11月14日調査実施

項目	個数	重量（g）
プラスチック片	262	1.05
レジンベレット	111	2.22
徐放性肥料の殻	1,148	3.44
発泡スチロール片	101	0.10
合計	1,622	6.81

※レジンベレット
製品に加工する前のプラスチックの粒
※徐放性肥料
散布回数を減らすため、少しずつ溶け出すようプラスチック等でコーティングした肥料

■身近に見えてきたプラスチック問題

藤前干潟では、すぐ目に留まるペットボトルなどのほか、注意しなければ気づきづらいマイクロプラスチックが皆さんの身近にも現れており、これも皆さんに影響するプラスチック問題といえます。

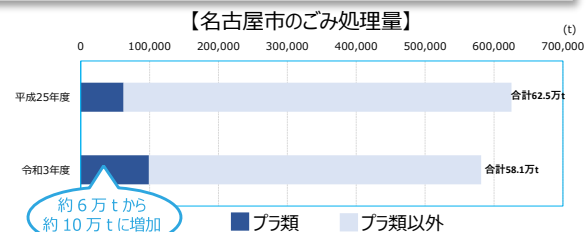
■ごみ処理における状況

プラスチック類のごみ処理量

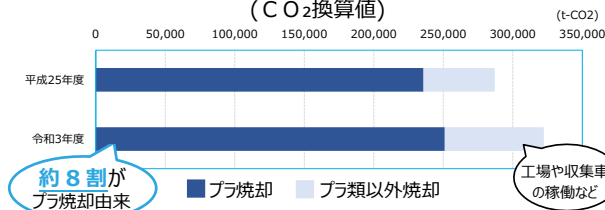
ごみとして処理されるものの総量は減少していますが、その中に含まれるプラスチック類は大きく増加しています。

温室効果ガスの排出量

本市のごみ処理事業における温室効果ガス排出量は増加しており、その大半（約8割）はプラスチック類の焼却に由来するものです。



【名古屋市のごみ処理事業における温室効果ガス排出量】
(CO₂換算値)



■目には見えないプラスチック問題

プラスチック類が大量に廃棄されることにより、有限である天然資源が消費されるほか、焼却されることにより地球温暖化の原因となるCO₂の排出量も増加しています。これらの影響を知った上で、プラスチックと付き合う必要があります。